

(資料 1)

平成 19 年度 事 業 報 告

(2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会 員 現 況

| 会員種別 | 平成 19 年度 | | | 参 考 | |
|-------|--------------------------|---------------------------|-----------------|---------------------------|-----------------------|
| | 2007. 4. 1 現在数 (A) | 2008. 3. 31 現在数 (B) | 年度内の増減 (B-A) | 2007. 3. 31 現在数 (C) | 前年度末 との対比 (B-C) |
| 名誉会員 | 16 | 16 | 0 | 16 | 0 |
| 終身会員 | 100 | 92 | △8 | 98 | △6 |
| 正 会 員 | 3,491 | 3,424 | △67 | 3,453 | △29 |
| 学生会員 | 830 | 810 | △20 | 851 | △41 |
| 賛助会員 | 219 社 (374 口) | 214 社 (357 口) | △5 社 (△17 口) | 215 社 (370 口) | △1 社 (△13 口) |
| 特殊会員 | 120 社 (133 口) | 116 社 (129 口) | △4 社 (△4 口) | 117 社 (130 口) | △1 社 (△1 口) |

2. 定款・規則等の制定・改正

(1) 学会組織の英文名称の見直し

(2007. 9. 20)

3. 機 関 誌 の 刊 行

(1) 日本音響学会誌

本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

63 巻 4 号～64 巻 3 号 (2007 年 4 月～2008 年 3 月)

| | 巻 | | 63 巻 | | | | | | | | 64 巻 | | | 計 | |
|---------------------------------|--------------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| | 号 | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | | 3 |
| | 本文ページ | | 60 | 48 | 46 | 66 | 106 | 64 | 50 | 76 | 62 | 62 | 68 | 50 | 758 |
| 主 な 論 文 ・ 記 事 | 巻頭言 | | | | 2 | | | | | | | 2 | | | 4 |
| | 音叉 | | 2 | | | 2 | | | 2 | | | | | | 6 |
| | 論文 | | 24 (3) | 23 (3) | 23 (3) | 22 (2) | 9 (1) | 18 (2) | 23 (3) | 33 (3) | 22 (3) | 13 (2) | 21 (2) | 19 (2) | 250 (29) |
| | 技術報告 | | | | 4 (1) | | | | | | | 11 (1) | | 6 (1) | 21 (3) |
| | 寄書 | | | | | | 3 | | | | | | | | 3 |
| | 特別講演 | | | | | | 8 (1) | | | 3 (1) | | | 5 (1) | | 16 (3) |
| | シリーズ企画 | | | | 5 (1) | | | | | | | | | | 5 (1) |
| | 解説 (小特集を含む) | | 28 (5) | 13 (2) | 6 (1) | 36 (7) | 22 (3) | 38 (7) | 20 (3) | 35 (6) | 29 (4) | 30 (6) | 35 (7) | 21 (4) | 313 (55) |
| | 会議報告 (シンポジウム報告) | | | 6 (2) | | | 11 (1) | | | | 2 (1) | | | | 19 (4) |
| | 連載企画 | | 1 (1) | | 1 (1) | | 1 (1) | | 1 (1) | | 1 (1) | | 1 (1) | | 6 (6) |
| 研究発表会報告 | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 2 | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|----|
| 主 な 論 文 記 事 | 選奨記事 | | | | | 11 | | | | | | | | 11 |
| | 総会記事 | | | | | 10 | | | | | | | | 10 |
| | 書評 | | | | 1 | 1 | 1 | | | | 1 | | | 4 |
| | 研究会発表論文一覧 | | | | | 24 | | | | | | | | 24 |
| | 博士論文紹介 | | | | | | 2 | | | | | | | 2 |
| | コーヒーブレイク | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 |
| | 63巻総目次 | | | | | | | | | 4 | | | | 4 |
| | 学会記事等 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 18 |
| | 投稿規定 | | | | | | | | | | 19 | | | 19 |
| | 編集後記 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 会告 | 9 | 15 | 27 | 16 | 19 | 55 | 17 | 21 | 19 | 11 | 55 | 11 | 275 | |
| 広告 | 13 | 11 | 11 | 13 | 11 | 13 | 11 | 15 | 11 | 13 | 9 | 11 | 142 | |
| 発行部数 | 5300 | 5200 | 5200 | 5150 | 5150 | 5150 | 5150 | 5150 | 5150 | 5150 | 5150 | 5150 | | |
| 小特集タイトル | ※1 | | | ※2 | | ※3 | | ※4 | | ※5 | ※6 | ※7 | | |

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

- ※1 聴力保護のための調査研究委員会報告
- 2 言語障害を通して再考する音声言語情報処理
- 3 縮尺模型実験
- 4 音響配信及び通信における音質変化とその評価
- 5 現代のニーズに即した魅力ある音響教育
- 6 音響技術における標準
- 7 MIDI 規格がもたらしたものと今後の展望

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2007年5月、7月、9月、11月、2008年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊を刊行した。

Vol. 28 No. 3~Vol. 29 No. 2 (2007年5月~2008年3月)

| Vol. | | Vol. 27 | | | | Vol. 28 | | 計 |
|---------------------------------|-------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|-------------|
| No. | | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | |
| 本文ページ | | 76 | 80 | 71 | 88 | 120 | 82 | 517 |
| 主 な 論 文 ・ 記 事 | Paper | 62 (7) | 52 (5) | 40 (4) | 56 (6) | 93 (12) | 55 (6) | 358 (40) |
| | Technical Report | | 4 (1) | 8 (1) | | | 9 (1) | 21 (3) |
| | Acoustical Letter | | 15 (4) | 20 (6) | 11 (3) | 22 (6) | 23 (4) | 91 (23) |
| | Foreword | 1 (1) | | | | 1 (1) | | 2 (2) |
| | Invited Review | | 4 (1) | | 8 (1) | | | 12 (2) |
| | Translated Paper | 9 (1) | | | | | | 9 (1) |
| | Short Note | | | | 3 (1) | | | 3 (1) |
| | 和文誌英文目次 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 |
| | 和文誌論文等内容梗概 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 |
| | Vol. 28 総目次 | | | | 6 | | | 6 |
| 発行部数 | | 5200 | 5150 | 5150 | 5150 | 5150 | 5150 | |
| 小特集タイトル | | | | | | ※1 | | |

注) 欄中の () 内数値は編数。

※1 Special issue on "the ASA-ASJ joint meeting"

- (3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J-STAGE) のサイト (URL <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ast/-char/en>) で、引き続いて Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。

4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2007年3月13日、14日、15日の3日間、芝浦工業大学を会場として開催した。参加者実数は、1391名である。
 なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とする新人盛会を開催した。
 また、アコースティックテクノプラザ(展示会)を併催した。
 スペシャルセッションは、分野横断型スペシャルセッションとして2件、「障害者・高齢者支援と音声情報処理(招待講演4件)」、「補聴器システムによる”聞こえ”支援—音バリアフリーを目指して—(招待講演4件)」のほか、単独分野で3件、「交差点部を含む一般道路の道路交通騒音の予測モデル(招待講演4件)」、「重量床衝撃音予測・評価の最近の展開(招待講演4件)」、「非線形音響の新展開(招待講演3件)」で実施した。
- (2) 秋季研究発表会は、2007年9月19日、20日、21日の3日間、山梨大学甲府キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1009名である。
 分野横断型スペシャルセッションとして1件、「音声の可視化(招待講演4件)」のほか、単独分野で4件、「音楽制作における音色(Ⅱ) 音色の創作(招待講演3件)」、「ヒト高次脳機能におけるマルチモーダル統合(招待講演4件)」、「音声ドキュメント処理(招待講演2件)」、「室内音場の諸因子とそれらの測定・評価方法(招待講演5件)」で実施した。
- (3) ポスター賞は、春季研究発表会は5件、秋季研究発表会は5件を選定し贈呈した。
- (4) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

| 分野別 | | 春季 | 秋季 |
|--------------|-----------------|-----|-----|
| 講演件数 | 音声 A | 96 | 113 |
| | 音声 B | 68 | 67 |
| | 聴覚/聴覚・音声 | 53 | 54 |
| | 電気音響 | 113 | 82 |
| | 音楽音響 | 18 | 22 |
| | 騒音・振動 | 45 | 38 |
| | 建築音響 | 43 | 61 |
| | 超音波 | 112 | 82 |
| | 水中音響 | 9 | 6 |
| | アコースティック・イメージング | 18 | 18 |
| | 分野横断(障害者・高齢者支援) | 18 | — |
| | 分野横断(音バリアフリー) | 6 | — |
| 分野横断(音声の可視化) | — | 9 | |
| 計 | | 599 | 557 |

| | | | |
|------|-----|---------------------------|------------------|
| 特別講演 | 演 題 | 地球温暖化抑止に向けて—水素利用技術の最近の進歩— | ワインの科学 |
| | 講 師 | 芝浦工業大学学長 平田 賢 氏 | 山梨大学教授 高柳 勉 氏 |

5. 研究会の開催

- (1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

| 研究会名 | 委員長 (敬称略) | 開催回数 | 発表件数 | 備考 |
|-------|--------------|------|------|---|
| 超音波 | 竹内 正男 | 13 | 119 | アコースティックイメージング調査研究委員会、音響化学研究会との合同開催の分を含む |
| 騒音・振動 | 吉久 光一 | 10 | 66 | 建築音響研究会、アコースティックイメージング調査研究委員会との合同開催の分を含む |
| 電気音響 | 牧野 昭二 | 11 | 129 | 聴覚研究会との合同開催の分を含む |
| 音 声 | 小林 隆夫 | 9 | 216 | 聴覚研究会との合同開催の分を含む |
| 聴 覚 | 伊藤 憲三 | 10 | 149 | 音声研究会、建築音響研究会、電気音響研究会との合同開催の分を含む |
| 建築音響 | 吉村 純一 | 13 | 80 | 聴覚研究会、騒音・振動研究会、アコースティックイメージング調査研究委員会との合同開催の分を含む |
| 音楽音響 | 柳田 益造 | 8 | 99 | |
| 音響化学 | 酒井 啓司 | 1 | 23 | 音波の物性と化学討論会（超音波研究会と共催） |
| 合 計 | | 75 | 881 | |

- (2) 今年度から騒音・振動，聴覚，建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務を学会事務局に移管した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 2007年6月4日から6日の3日間，東北大学青葉記念会館(仙台市)において日中音響学会議(The Japan-China Joint Conference on Acoustics 2007)を開催した。なお，発表件数は85件，参加者は108名であった。また，日本からの発表申込は42件，参加者は77名であった。

イ. 2007年4月16日から18日の3日間，湘南国際村センター(神奈川県)において，第29回国際アコースティックイメージングシンポジウムを共催した。なお，発表件数は81件(うち日本47件)，参加者は107名(うち日本78名)であった。

ウ. 第40回国際騒音制御工学会議(Inter-Noise 2011)の日本開催を招致するため，(社)日本騒音制御工学会と協力して同招致委員会を設け，会場の選定，予算の作成等準備を行った。

- (2) 当学会が会員となっている国際音響学会(ICA)，国際騒音制御工学会(I-INCE)の総会等に出席し，その活動に協力した。また，西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

- (1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。
- (2) 音響に関する国際規格(ISO/TC 43，同/SC1，同/SC2及びIEC/TC29関係)の審議を日本規格協会から委託され，それぞれの専門委員会(橘 秀樹委員長[ISO]，佐藤宗純委員長[IEC])において審議し，結果をとりまとめて報告した。

8. 調査研究委員会の活動

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所から「道路交通騒音の予測及び対策手法の検討」及び名古屋高速道路公社から「平成19年度道路交通騒音の予測及び対策手法の検討業務委託」を受託。さらに(株)環境技術研究所から「交差点部等の騒音予測法に関する研究」，(株)ニューズ環境設計から「道路交通騒音の環境センサスデータを用いた検討業務」を受託。

道路交通騒音調査研究委員会(山本貢平委員長)が作業を実施し，その成果を委託者に報告した。

- (2) 建設工事騒音予測に関する調査研究

(独)土木研究所から一連の「建設工事騒音予測手法に関する調査検討業務」を受託。建設工事騒音予測調査研究委員会(橘 秀樹委員長)が作業を実施し、その成果を委託者に報告した。

(3) 音響教育に関する調査研究

音響教育調査研究委員会(荒井隆行委員長)において、音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。また、国立科学博物館と共催して児童生徒を対象とする“音の科学教室”等を開催した。

(4) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会(上羽貞行委員長)において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。また、当学会2007年春季研究発表会において、「補聴器システムによる”聞こえ”支援—音バリアフリーを目指して—」と題するスペシャルセッションを開催した。

(5) 超音波暴露に関する調査研究

超音波暴露調査研究委員会(蘆原 郁委員長)において、強力超音波、骨導超音波、楽音に含まれる超高周波音など、超音波が人体に及ぼす影響・評価について、定量的な指針確立に向けての情報交換の場を提供し、提言を行う活動を実施した。

(6) アコースティックイメージングに関する調査研究

アコースティックイメージング調査研究委員会(渡辺好章委員長)において、音波を利用するイメージング、音波等の可視化技術等について調査研究及び研究発表会のアコースティックイメージングセッションのプログラム編成を行った。なお、同調査研究研究会は、次年度からアコースティックイメージング研究委員会として活動することになった。

(7) 音と脳科学に関する調査研究

人と音と脳の関わりを調査研究するため、音と脳科学調査研究委員会(本田 学委員長)を設置した。

9. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第31回功績賞受賞者は、久野和宏、野村康雄、山下充康の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

(2) 佐藤論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌62巻1号~12号、63巻1号~12号並びにAST誌Vol.27 No.1~No.6, Vol.28 No.1~No.6に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2008年春季研究発表会選奨会場(2008年3月18日)で本賞を贈呈した。

第48回佐藤論文賞受賞論文(敬称略)

○藤本一壽・山口晃治・中西敏郎・穴井 謙(九州大学)

「平面道路に面する地域における戸建て住宅群による道路交通騒音減衰量の予測法」日本音響学会誌63巻6号

○坂本眞一・渡辺好章(同志社大学)

「Experimental study on resonance frequency of loop-tube-type thermoacoustic cooling system」Acoustical Science and Technology誌Vol.27 No.6

○荒井隆行(上智大学)

「Education system in acoustics of speech production using the physical models of the human vocal tract」Acoustical Science and Technology誌Vol.28 No.3

(3) 粟屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2007年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2008年春季研究発表会選奨会場(2008年3月18日)で本賞を贈呈した。

第 25 回粟屋 潔学術奨励賞受賞者（敬称略）

ア. 2007 年春季研究発表会

○大庭 隆伸（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

「認識誤りに対する各単語 N-gram の関与度を考慮した誤り訂正学習」

○亀岡 弘和（東京大学，現 NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

「正弦波重畳モデルのパラメータ最適化アルゴリズムと 1ch ブラインド音源分離への応用」

○小山 大介（東京工業大学）

「自走式超音波浮上リニアステージ」

イ. 2007 年秋季研究発表会

○篠崎 隆宏（京都大学 現 東京工業大学）

「頑健なパラメータ推定のための Aggregated EM アルゴリズムの提案」

○松井 孝典（大阪大学）

「音環境マネジメントのための知識創生」

○吉田 憲司（同志社大学）

「寒天付着気泡の崩壊挙動が寒天に与える作用」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2008 年春季研究発表会選奨会場（2008 年 3 月 18 日）で本賞を贈呈した。

第 3 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者（敬称略）

○荒木章子（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

「独立成分分析に基づくブラインド音源分離の研究」

○全 炳河（名古屋工業大学）

「HMM に基づく音声合成のための音響モデリングの研究」

(5) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者、賛助会員所属の個人、グループに贈られるもので、公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第 16 回技術開発賞受賞者（敬称略）

○旭硝子(株)板ガラスカンパニー／AGC グラスプロダクツ(株)

「レゾネータを組み込んだ防音複層ガラス（マイミュート）の開発」

松本 猛，原田良春，松島正也（旭硝子(株)板ガラスカンパニー），秋山貴彦，八田耕一，荻野 徹，宮明雄司（AGC グラスプロダクツ(株)）

○(株)国際電気通信基礎技術研究所 音声言語コミュニケーション研究所／(株)ATR-Trek

「携帯電話によるネットワーク型コーパスベース音声翻訳システムの構築」

中村 哲，隅田英一郎，清水 徹，袋谷丈夫，葦苳 豊，松田繁樹，Konstantin Markov，

大熊英男（ATR 音声言語コミュニケーション研究所），木道嘉之，古谷利昭（ATR-Trek）

○日本放送協会 放送技術研究所／三研マイクロホン(株)

「音楽録音用超広帯域マイクロホンの開発」

小野一穂，岩城正和，安藤彰男，杉本岳大，西口敏行，濱崎公男（NHK 放送技術研究所），

今永敬嗣（三研マイクロホン）

1 0 . 講習会，講演会の開催

(1) 講習会（敬称略）

事業委員会（伊藤洋一委員長）が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「音源定位と音源分離の基礎」（第 97 回技術講習会）

- 期 日；2007年6月19日～20日 会場；全国家電会館
 講 師；浅野 太（産業技術総合研究所）
 受講者数；60名
- イ.「強力超音波の基礎と応用」（第98回技術講習会）
 期 日；2007年7月12日 会場；全国家電会館
 講 師；中村健太郎（東京工業大学），渡辺裕二（拓殖大学），山森春男（本多電子）
 受講者数；38名
- ウ.「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2003”の基礎と応用」
 （第15回音響技術セミナー）
 期 日；2007年8月6日～7日 会場；全国家電会館
 講 師；山本貢平（小林理学研究所），押野康夫（日本自動車研究所），
 田近輝俊（環境技術研究所），福島昭則（ニューズ環境設計），
 三宅龍雄（総合技術コンサルタント），坂本慎一（東京大学）
 受講者数；25名
- エ.「スペクトル解析と情報計測の基礎」（第99回技術講習会）
 期 日；2007年8月21日～22日 会場；全国家電会館
 講 師；金井 浩（東北大学）
 受講者数；22名
- オ.「デジタル信号処理の基礎」（第100回技術講習会）
 期 日；2007年11月8日～9日 会場；東京電機大学神田キャンパス
 講 師；金田 豊（東京電機大学）
 受講者数；45名
- カ.「Juliusの演習による音声認識の実用技術」（第101回技術講習会）
 期 日；2007年11月28日～29日 会場；全国家電会館
 講 師；李 晃伸（名古屋工業大学）
 受講者数；30名

(2) サマーセミナー（敬称略）

- ア.「音響学の基礎と最近のトピックス」（第10回サマーセミナー）
 期 日；2007年7月30日～8月1日 会場；長野県白馬・シェラリゾート
 講 師；赤木正人（北陸先端科学技術大学院大学），荒井隆行（上智大学），
 及川靖広（早稲田大学），大内康裕（早稲田大学），大川茂樹（千葉工業大学），
 須田宇宙（千葉工業大学），瀧浪弘章（リオン），中村健太郎（東京工業大学），
 羽入敏樹（日本大学），三井田惇郎（千葉工業大学），三浦雅展（龍谷大学），
 森本政之（神戸大学），山崎芳男（早稲田大学），山田真司（金沢工業大学）
 受講者数；59名

1 1. 出版事業

今年度は、音響テクノロジーシリーズの「音環境デザイン(シリーズ12)」及び「音楽と楽器の音響測定(シリーズ13)」を刊行した。また、音響入門シリーズの編成作業を進めると共に新たなシリーズの刊行を検討した。

1 2. 学会電子化推進に関する活動

電子化推進委員会（武田一哉委員長）において、Web を利用した各種会員サービスについて検討した。

1 3. 会勢拡大及び広報に関連する活動

- (1) 広報委員会(宇佐川毅委員長)において、メーリングリストを利用した会員へのメールニュースを送付し、会員への迅速な情報伝達を図った。
- (2) 活性化委員会(尾本 章委員長)において、学生フォーラムと協働して作業を行い、今年度は、Web メールを作成して、広報に努めた。

1 4. 通常総会の開催

(1) 第41回通常総会

2007年5月22日、東京工業大学情報理工学研究科大会議室において開催した。なお、出席者は、122名（うち委任状による出席80名）であった。

1 5. 理事会、役員会並びに委員会活動

- (1) 理事会の開催
平成19年度理事会は、2007年4月、2008年2月、3月の3回開催した。
- (2) 役員会の開催
平成19年度役員会は、2007年8月を除く毎月、計11回開催した。
- (3) 企画委員会
平成19年度企画委員会(瀧浪弘章委員長)は、毎月、計12回開催した。
- (4) 編集委員会の開催
平成19年度編集委員会(正木信夫委員長)は、2007年5月、6月、7月、9月、11月、2008年1月及び3月の計7回開催した。
- (5) 学術委員会
平成19年度学術委員会(金井浩委員長)は、2007年7月、9月、12月、2008年3月の4回開催した。
- (6) 研究発表会準備委員会
平成19年度研究発表会準備委員会(大鶴徹委員長)は、2007年7月、9月、12月、2008年3月の4回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、7月、12月の2回開催した。
- (7) 国際渉外委員会
平成19年度国際渉外委員会(松川真美委員長)は、2007年9月、2008年3月の2回開催した。

16. 他学協会等からの共催等依頼

| 区 分 | 件 数 | 摘 要 |
|-----|------|----------------|
| 共 催 | 1 件 | (社)日本機械学会 |
| 協 賛 | 35 件 | (社)計測自動制御学会ほか |
| 後 援 | 3 件 | (社)日本電子回路工業会ほか |
| 計 | 39 件 | |

17. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

| 事業の内容 | 開催日 | 場 所 | 摘 要 (敬称略) |
|--------------------|-----------------------|----------------------------------|---|
| 支部総会 | 19. 4. 26 | 積水ハウス(株) 総合住宅研究所 | 出席者 190 名(うち委任状 167) / 定足数 120 名 |
| 講演会・見学会・試食会 | 19. 4. 26 | 積水ハウス(株)総合住 宅研究所 レストランあわさい | 「住, 食, 健康」に関する見学会 薬膳に関する講演会及び試食会 参加者 32 名 |
| 聴覚研究会 | 19. 5. 18 ～ 19 | 同志社大学 | 発表件数 21 件 参加者 188 名 |
| 音楽音響研究会 | 19. 5. 19 | 同志社大学 | 発表件数 4 件 参加者 20 名 |
| 電気音響研究会 | 19. 5. 24 ～ 25 | 大阪大学 | 発表件数 21 件 参加者 67 名 |
| 音声研究会 | 19. 5. 31 | A T R | 発表件数 7 件 参加者 32 名 |
| 電気音響研究会 | 19. 9. 28 | 奈良先端大学 | 発表件数 5 件 参加者 35 名 |
| 第3回動物音響談話会 | 19. 10. 31 | 同志社大学 | 講演 3 件 参加者 42 名 |
| 電気関係学会関西支部 連合大会 | 19. 11. 17 ～ 18 | 神戸大学・工学部 | シンポジウム講演「音声メディア によるコミュニケーション技術の 新展開」6 件 一般講演セッション「音響」 講演 18 件 |
| 見学会・講演会 | 19. 11. 22 | 国立国会図書館・関西館 | 国会図書館に関する見学及び利用 |

| | | | |
|------------------------|--------------------|---------------------|------------------------|
| | | | 講習会 参加者 30 名 |
| 第 10 回若手研究者 交流研究発表会 | 19. 11. 29 | 甲南大学平生記念セ ミナーハウス | 発表件数 41 件 参加者 120 名 |
| 音声研究会 | 19. 12. 20 ～ 21 | NTT 京阪奈ビル | 発表件数 55 件 参加者 263 名 |
| 聴覚研究会・建築音響研 究会 | 20. 1. 23 | 京都大学 | 発表件数 6 件 |
| 電気音響研究会 | 20. 1. 28 ～ 29 | 関西大学 | 発表件数 17 件 参加者 138 名 |
| 超音波研究会 | 20. 1. 28 ～ 29 | 関西大学 | 発表件数 20 件 参加者 138 名 |
| 騒音・振動研究会 | 20. 2. 29 | キャンパスプラザ京都 | 発表件数 5 件 参加者 16 名 |

(2) 東 北 支 部

ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

| 事業の内容 | 開催日 | 場 所 | 摘 要 (敬称略) |
|--|--------------------|-------------------------|--|
| 第 1003 回学術講演会 | 19. 4. 24 | 東北大学工学部 | 「Ultrasound blood perfusion measurements without contrast」 講 師 Dr. Tomas Jansson (Associate Professor, Lund Institute of Technology, Lund University, Sweden) |
| 支部総会 | 19. 5. 16 | 東北大学工学部 | |
| 第 1005 回学術講演会 | 19. 5. 16 | 東北大学工学部 | 演題：「超音波による治療と イメージングにおける非線形 効果」 講師 梅村 晋一郎 氏 (東北 大学大学院 工学研究科 教授) |
| The Japan-China Joint Conference on Acoustics 2007 (日中音 響学会議 2007) (協賛) | 19. 6. 4 ～ 6 | 東北大学工学部青葉記 念会館 | |
| 音楽音響研究会 | 19. 6. 16 | 東北大学大学院 | |
| 音声研究会 | 19. 6. 28 ～ 29 | 会津大学 | |
| 建築音響研究会 | 19. 6. 29 | 東北文化学園大学 | |
| 聴覚研究会・電気音響研 究会 | 19. 8. 9 ～ 10 | 東北大学大学院 | |
| 電気関係学会東北支部 連合大会 | 19. 8. 23 ～ 24 | 弘前大学理工学部 | 発表件数 356 件 セッション数 58 件 参加者 600 名 特別講演「縄文文化の扉を開く」 講師：岡田康博 氏(青森県教育 庁) |
| 超音波研究会 | 19. 9. 27 ～ 28 | 東北大学大学院 | |
| 聴覚研究会 | 19. 10. 19 ～ 20 | いこいの村岩手 | |
| 騒音・振動研究会 | 19. 11. 30 | 東北文化学園大学 | |
| 建築音響研究会 | 20. 2. 9 | 岩手芸術文化交流館 「アリオス」大ホール | |

| | | | |
|---------------------------|-----------|---------|---|
| 平成 20 年東北地区若手研究者研究発表会(共催) | 20. 2. 29 | 東北工業大学 | |
| 第 1021 回学術講演会 | 20. 3. 5 | 東北大学工学部 | 演題：「ゾルゲルスプレー法による厚膜超音波トランスジューサとその応用」 講師 小林 牧子 氏(カナダ国立工業材料研究所 研究員) |

(3) 東 海 支 部

ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

| 事業の内容 | 開催日 | 場 所 | 摘 要 (敬称略) |
|------------------------------|-------------------|---------------------|---|
| 支部総会 | 19. 3. 28 | 名古屋大学 | 参加者 10 名 |
| 騒音・振動研究会 | 19. 5. 25 | 名城大学天白キャンパス | 講演件数 6 件 参加者 46 名 |
| 東海地区音声関連研究室 M2 中間発表会(協賛) | 19. 8. 4 | 名古屋大学 | 講演件数 41 件 参加者 123 名 |
| 音声研究会 | 19. 9. 27 ～ 28 | 名古屋工業大学 | 講演件数 27 件 参加者 延べ 77 名 |
| 電気関係学会東海支部連合大会 | 19. 9. 27 ～ 28 | 信州大学若里キャンパス | 一般講演 479 件 (音響部門 10 件) シンポジウム 6 件 参加者 955 名 |
| 見学会 | 19. 10. 4 | 愛知県芸術文化センターコンサートホール | 「パイプオルガンの生演奏を聴こう」協力 愛知県芸術文化センター 参加者 34 名 |
| 講演会(音楽療法・音楽情報処理に関する講演会) | 19. 11. 12 | 愛知工業大学本山キャンパス | 講演：2 件，参加者：43 名 1. 市江雅芳氏 (東北大・東北大病院) 「音楽でウェルネスを手に入れる；リハビリ専門医の体験的音楽健康法」 2. 後藤 真孝氏 (産総研) 「能動的音楽鑑賞インタフェース；音楽音響信号理解技術は音楽の聴き方をどのように豊かにできるか？」 |
| 東海地区騒音振動等若手セミナー・産学官モデル事業セミナー | 20. 1. 24 | 愛知工業大学本山キャンパス | (若手)講演：6 件，参加者：22 名 (産学官)講演：5 件，参加者：21 名 テーマ：「環境分野等における産学官連携事業について」 |
| 専門講習会 (協賛) | 20. 3. 10 | ローズコートホテル | 「高機能アレーアンテナとその応用技術」 参加者 36 名 |

(4) 九 州 支 部

ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

| 事業の内容 | 開催日 | 場 所 | 摘 要 (敬称略) |
|----------------|--------------------|--------------|-------------------------|
| 支部総会 | 19. 3. 31 | 九州大学・大橋キャンパス | 出席者 88 名(うち委任状提出者 62 名) |
| 電気関係学会九州支部連合大会 | 19. 9. 18 ～ 19 | 琉球大学 | 発表総数 539 件(内，音響関係 16 件) |
| 建築音響研究会 | 19. 10. 5 | 宮崎市民プラザ | |
| 音声研究会 | 19. 10. 25 ～ 26 | 長崎大学 | |

| | | | |
|--------------------|--------------------|-----------------|-----------|
| 第7回学生のための研究 発表会 | 19. 10. 27 | 九州大学大橋キャンパ ス | 発表件数 19 件 |
| 電気音響研究会 | 19. 11. 15 ～ 16 | 熊本大学 | |
| 聴覚研究会 | 19. 12. 6 ～ 7 | 熊本大学 | |
| 騒音・振動研究会 | 19. 12. 17 | 九州大学・西新プラザ | |
| 騒音・振動研究会 | 20. 3. 11 | 沖縄産業支援センター | |

イ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会，研究会における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は5名であった。

(5) 北 陸 支 部

ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

| 事業の内容 | 開催日 | 場 所 | 摘 要 (敬称略) |
|----------------------------|-------------------|------------|--|
| 支部総会 | 19. 4. 19 | 金沢蓄音機館 | 出席者 29 名 (うち委任状提出者 17 名) |
| 音声・聴覚研究会 | 19. 7. 26 ～ 27 | 富山県立大学 | 発表件数 21 件 参加者約 80 名 |
| 電気関係学会北陸支部 連合大会 | 19. 9. 8 ～ 9 | 福井工業大学 | 発表件数 415 件 (うち, 音響関係 16 件) 招待講演「閾値処理を介して得ら れた音声特徴量に対する雑音耐性 の検討」 講師：船田哲男氏 (金沢大学) |
| 平成 19 年度北陸地区学 生による研究発表会 | 20. 3. 8 | 福井工業高等専門学校 | 発表件数 178 件 (内音響関係 21 件) 参加者 212 名 |

イ. 表彰

電気関係学会北陸支部連合大会における発表者のうち, 1 名に優勝論文発表賞を贈呈した。